

農業名人

文化継承名人 じゅく かま塾

平成13年発足 南箕輪村

地域の伝統・昔ながらの知恵を伝承



南箕輪村神子柴区の「かま塾」は、地域の大人が主体となり、子どもたちに農業、文化活動を体験してもらい、地域の伝統や食文化を後世に残すことを目的に平成13年4月に発足した。

「かま塾」の名称は、この地域に昔から「かま」という字名が存在していること、溪流の小さな淵の意味である「かま」が由来である。また、「かまとぶ」という昔話に残されているように、人々の温かい心を引き継ぎたいとの思いを込めて、「かま塾」と名付けた。

主に小中学生を対象に活動しているが、具体的な取り組みとして、地域の景観を損なう遊休荒廃農地を有効活用し、さまざまな種類の農作物を栽培しながら技術指導を行っている。収穫時には焼き芋、そば打ち、おやき、五平餅、こんにゃく、醤油、味噌づくりなど、郷土食の調理実習を行っている。また、栽培した大麦を用いて、季節の風物詩である「まんど」を作り、各家庭や地区行事に利用されている。このほか、凧、竹トンボ、竹馬、お手玉を手作りし、体験するなど、農村独特の文化活動を実践している。これらはすべて、地域の様々な方々が指導者となり活動している。

現在、「かま塾」の参加数は年間延べ500人以上が参加。PTA保護者会、地区社会福祉協議会、村食生活改善推進協議会、信州大学農学部学生なども協力していただけるようになり、地域ぐるみでの活動の幅が広がってきた。さらに、多くの父兄が活動に参加し、次世代サポーターの育成が活発となってきている。



これらの取り組みは、子どもたちの知恵袋として大きな財産となっており、子どもの成長を助け見守る場として、親御さんからも非常に喜ばれている。

地域の伝統や昔ながらの知恵を伝え、農業文化の伝承に積極的に取り組む活動団体は貴重な存在である。